



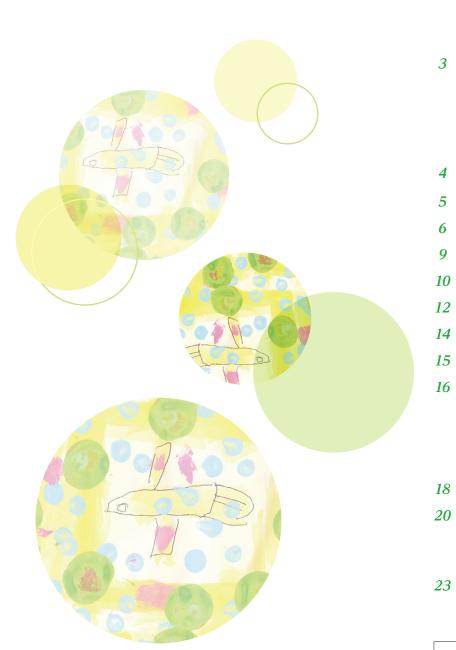
宝グループ 環境活動REPORT 2024



★ 統合報告書 (宝グループレポート) は こちらをご覧ください。 宝ホールディングス株式会社

京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL: 075-241-5130

(2024年11月)



1. 環境方針

2. 環境活動

● LCA (ライフサイクルアセスメント)

原料調達――環境に配慮した商品

生産 — 宝グループのCO2排出量削減と算定/生産工程でのCO2排出/水資源の利用/廃棄物の削減

物流——物流工程でのCO2排出

10 販売・消費 — 4Rの推進/容器包装資材の循環

12 ● タカラ・ハーモニストファンド

● 田んぼの学校

● エコの学校

● その他の環境社会活動

3. 環境データ

● 各種データ

● TCFDフレームワークに基づく開示

23 4. 宝の環境社会活動のあゆみ

1. 環境方針

宝グループ環境方針

宝グループは、地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題のひとつとし、環境マネジメントシステムを構築して継続的な改善に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献します。

- ② 宝グループが行う事業活動の中、以下の項目について 重点的に取り組みます。
 - ① 環境汚染の予防に努めます。
 - ② 省エネ・省資源を推進し、持続可能な資源の利用に努めます。
 - ③ 温室効果ガスの排出量を削減し、気候変動の緩和に努めます。
 - ④ 生物多様性や生態系の保護・保全に関わる活動 を推進、支援します。
 - ⑤ 容器包装の3Rへの対応など、環境に配慮した 商品開発に努めます。
- 3 環境活動への取り組みや環境パフォーマンス情報 を積極的に開示し、社会とのコミュニケーション に努めます。
- 本環境方針は、教育啓発活動を通じて宝グループの 全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動 への参加を積極的に支援します。

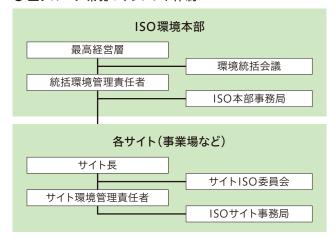
宝グループ環境マネジメントシステム

ISO14001に基づく環境マネジメント体制を確立

宝酒造の全工場、本社、および宝ホールディングス、宝酒造インターナショナルの本社で、ISO14001の認証を取得しています。

ISO環境本部を中心に、経営と直結した目標に向かって活動 しています。

● 宝グループ環境マネジメント体制



環境関連法規の遵守状況

定期的に遵守状況をチェック

IS014001のシステムを有効に利用して定期的なチェックを実施し、法規の遵守状況を確認しています。また、環境汚染の未然防止の観点から、自主基準を設定しています。

なお、2024年3月期における環境法令違反による罰金 および処罰事項はありませんでした。

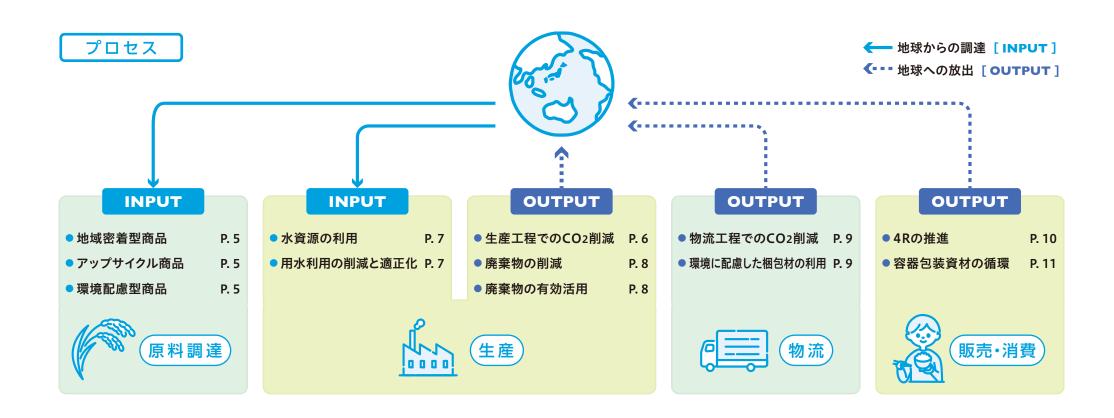
主要な環境関連法規

- ●公害関係法規(水質汚濁防止法など)
- ●廃棄物処理関係法規(廃棄物処理法など)
- ●化学物質管理関係法規(PRTR法、毒物劇物取締法など)
- ●リサイクル関連法規(容器包装リサイクル法など)
- ●省資源関連法規(省エネ法など)
- ●防災・危険物関係法規(消防法など) など

2. 環境活動

■ LCA (ライフサイクルアセスメント)

ライフサイクルアセスメントとは、製品やサービスにおいて、ライフサイクル全体での環境負荷を定量的に評価する手法のことです。当環境活動 REPORTでは、宝酒造・宝酒造インターナショナルでの事業を、「地球からの調達 = INPUT」と「地球への放出 = OUTPUT」に区分して紹介しています。宝グループの事業は環境に依存し、影響を与えていますが、製品の原料調達から消費までの過程の中で、その環境負荷を削減しながら事業活動を通じた社会課題の解決に取り組んでまいります。



(生産)

物流

流)(販売·消費)

INPUT

環境に配慮した商品

宝酒造では、果皮などの未利用部位を活用した商品を開発し、フードロス削減への取り組みを積極的に進めています。また、生産者と協働し、商品の原料から環境負荷について考慮した商品開発も行っています。

◇地域密着型商品 寶 CRAFT 〈京檸檬〉

「寶CRAFT」〈京檸檬〉では、本来は未利用部位として 廃棄している果皮や種から香り成分を抽出した京檸檬 スピリッツと、果皮や種をすりつぶした京檸檬ペースト を商品に使用しています。ここで使用されている京檸檬 は耕作放棄地を活用して栽培されました。

また、高齢化等により収穫時期の人手不足が課題となっていることから、当社社員が産地に訪問して収穫 のお手伝いを行う活動も続けています。



社員による収穫ボランティア

第7回エコプロアワード 財務大臣賞受賞

サステナビリティトランスフォーメーション (SX) の実現に寄与することを目的とした表彰制度「エコプロアワード」において、宝酒造の『耕作放棄地



を活用して誕生した「京檸檬」と「京檸檬」を活用した「寶 CRAFT」 〈京檸檬〉チューハイの取り組み』が「財務大臣賞」を受賞しました。



◇アップサイクル商品 タカラ「発酵蒸留サワー」

タカラ「発酵蒸留サワー」では、本来は廃棄されるはずの 柑橘の果皮を、独自の「発酵」と「蒸留」の技術でアップサイ クルした新しいお酒"果皮発酵スピリッツ"を開発、使用し ています。柑橘の果皮を発酵させることで、果皮に含まれる 香り成分を引き出し、さらにそれを蒸留することで必要な成 分のみを抽出しています。これにより、口に含んだ瞬間から 感じる複雑な香りと厚みを実現しました。



タカラ「発酵蒸留サワー」

◇環境配慮型商品 松竹梅白壁蔵「然土(ねんど)」

日本のメタンガス排出の4割以上は水田からの排出です。そのため、GHG削減のためには、水田で環境に配慮した取り組みが重要です。

松竹梅白壁蔵「然土」は、メタンガス排出を抑制した酒米を原料に使用しています。この酒米では、篤農家と協働して中干し期間を延長することでメタン生成菌の活動を抑制し、従来と比較して最大で約70%のメタンガス発生を抑制することに成功しました。



松竹梅白壁蔵「然土」



宝グループのCO2排出量削減と算定

CO2排出量削減への取り組み

宝グループはサステナビリティ・ビジョンにおいて CO2排出量削減目標を掲げ、Scope1,2,3 の算定とCO2排出量削減に取り組んでいます。

2030年度	宝酒造 +宝酒造インターナショナルグループ	生産拠点におけるCO ₂ 排出量を46%削減 (2018年度比)			
2030年皮	タカラバイオグループ	CO2排出原単位(売上高当たりのCO2排出量)を50%削減 (2018年度比)			
2050年度	グループ全体	CO2排出量実質ゼロ			

温室効果ガス(GHG)排出量算定範囲の拡大

宝グループでは、Scope1,2,3の算定範囲を段階的に拡大しており、2022年度は宝ホールディングスおよび宝酒造、2023年度は宝酒造インターナショナルグループの海外酒類事業を新たに算定しました。宝グループ全体のGHG排出量を把握するため、今後は、海外日本食材卸などに、算定範囲を拡大していきます。

温室効果ガス排出量検証機関より算定に 対する第三者認証を取得

宝ホールディングスおよび宝酒造では、2022年度を対象とした GHG算定に対して、GHG排出量検証機関である「一般社団法人日本 能率協会地球温暖化対策センター」より第三者認証を取得しました。



第三者認証報告書

生産工程でのCO2排出

省エネ設備の導入や設備運用の適正化による CO2 排出量削減

宝グループの2023年度の生産工程におけるCO2総排出量は99.3千t-CO2となり、前期比では4.8%の減少、2018年度比では15.0%の減少となりました。これは、グループ全体のCO2排出量の8割以上を占める宝酒造の生産工程で、高効率ボイラーへの更新、重油ボイラーの燃料転換、蒸留排温水の熱回収効率化など省エネ設備の導入や設備運用の適正化に取り組んだ効果によりCO2排出量が81.3千t-CO2となり、前期比4.2%の減少となったためです。このほか、宝酒造インターナショナルグループは排出量が横ばい、タカラバイオグループでは宝生物工程(大連)で再生可能エネルギー電力を一部使用したため減少しました。

宝グループの生産工程でのCO2排出量の推移



<集計範囲>

宝酒造、Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co.Ltd、タカラバイオ、宝生物工程(大連)有限公司、DSS Takara Bio India Pvt. Ltd.、Takara Bio USA,Inc. ※2019年2月まで瑞穂農林、きのこセンター金武を含む

 LCA (${}^{|}$

原料調達

産物流

物流)(販売・消費

INPUT

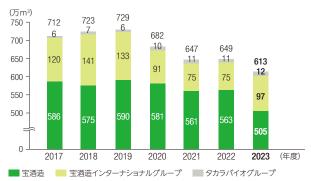
水資源の利用

生産工程での用水使用量の削減

宝グループでは、宝グループ環境方針に「省エネ・省資源を推進し、持続可能な資源の利用に努めます。」と掲げる通り、水資源使用量を削減することの重要性を認識し、使用量の削減および適正化を推進していきます。宝グループの2023年度の生産工程における用水の総使用量は613万㎡となり、新たに導入した節水設備等の効果により、前期比で5.5%の減少となりました。

また、宝酒造の用水原単位(生産数量 当たりの用水使用量)は基準年度である 2017年度に対して、12.9%の削減となり ました。

宝グループの生産工程での用水使用量の推移



<集計範囲>

宝酒造、Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、 The Tomatin Distillery Co.Ltd、タカラバイオ、宝生物工程(大連)有限公司、 DSS Takara Bio India Pvt. Ltd.、Takara Bio USA,Inc. ※2019年2月まで瑞穂農林、 きのこセンター金武を含む

宝酒造の原単位あたりの用水使用量推移



用水使用量削減および適正化の取り組み事例

宝グループでは、持続可能な水資源の利用を目指し、特に水使用量の多い宝酒造の 国内工場において優先的に節水と適正化の取り組みを進めていきます。

●節水設備の導入

宝酒造黒壁蔵では、井戸水を使用していますが、"クーリングタワー"を導入し、水を繰り返し使用することで、年間約400,000t削減することができました。



クーリングタワー

●洗浄水・冷却水の再利用

宝酒造松戸工場では、製造設備を洗浄したり、冷却するために井戸水を使用していますが、洗浄水や冷却水を回収して工業用水として再利用しています。この施策により、年間約125,000tの用水使用量が削減できました。

●殺菌用温水の再利用

宝酒造伏見工場では、製品を殺菌する際に必要な設備であるパストライザーの温排水を回収して、生産設備であるボイラーの用水として再利用しています。これにより、年間約18,000tの用水を削減できています。



パストライザー



廃棄物の削減

工場廃棄物の削減および再資源化によるサーキュラーエコノミーの推進

宝酒造の工場では、焼酎粕などの副産物や排水処理汚泥、原料や容器の運搬資材などの廃棄物が発生します。その対策として、焼酎粕などの食品系副産物の飼料化・肥料化、酒パック損紙のリサイクルなど、工場廃棄物排出量の削減に取り組んでいます。2023年度の宝酒造の廃棄物排出量は5.174t(再利用率98.1%)で、目標としている再利用率98%を達成しています。

廃棄物削減の 取り組み事例

- 焼酎粕飼料化設備の導入
- 排水処理汚泥の減容化
- 堆肥メーカーとの共同事業による使用済み活性炭の有機肥料化(再資源化)

宝酒造の廃棄物排出量の推移と再利用率



飼料化設備の活用

黒壁蔵では、2005年9月に「焼酎粕飼料化設備」を導入しました。この設備により、焼酎粕を家畜飼料原料として再利用するだけでなく、微量のアルコールを回収し施設内のボイラー燃料として活用することで、有機廃棄物の再資源化を実現しています。黒壁蔵では、資源を最大限再利用することで「ゼロエミッション化」を推進しています。



飼料化設備

酒粕・みりん粕のアップサイクルの促進

宝酒造では、グループ会社のタカラ物産を通じて、清酒およびみりんの製造工程で発生する副産物である「酒粕」「みりん粕」のほぼ全量を廃棄せず利用しています。それらは家庭用としての販売に加え、漬物や甘酒の原料、家畜飼料などに使用されています。



酒粕の回収工程



家庭用製品

活性炭の堆肥化

伏見工場では、2021年10月から清酒や本みりんの製造工程で 排出される活性炭をほぼ全量再利用しています。

活性炭は近畿農産資材(兵庫県)との協働により他の原料と混合し堆肥化させることで、有機肥料などに再資源化されます。これまで廃棄されていた活性炭は有機肥料となって国内のホームセンターで販売されています。



肥料散布の様子

(原料調達 (販売・消費 **OUTPUT**

物流工程でのCO2排出

物流の効率化や輸送方法の変更によるCO2排出量削減

宝酒造では、物流の効率化や省エネ運転、 モーダルシフトの推進、トラック輸送やタンカー 輸送における製品積載率の向上など、輸送 時のCO2排出量の削減に取り組んでいます。 2023年度の物流工程におけるCO2排出量は 13.2千t-CO₂、基準年度である2018年度比は 17.5%の削減となり、目標を達成しています。



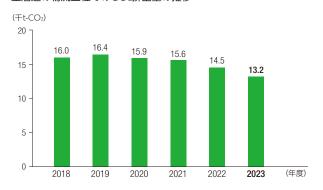
目次

専用タンカーでのアルコール輸送

物流工程での

- フェリー、鉄道などへのモーダルシフト
- CO2 排出量削減の 消費地生産による東西拠点間の転送の削減
- 取り組み事例
- 物流子会社による高積載トラックの開発

宝酒造の物流工程でのCO2排出量の推移



環境に配慮した輸送用保冷箱の利用

再生発泡スチロール(タカラバイオ)

研究用試薬は輸送の際に、熱・衝撃・振動による影響を避けるため、製品仕様に 合わせて、保冷剤や冷却材、緩衝材と共に発泡スチロール製の保冷箱に梱包し、 品質・性能を保持しています。

タカラバイオでは、この研究用試薬の輸送用保冷箱を、使用済み発砲スチロール や廃家電のポリスチレンから再生した樹脂を100%使用した「再生発泡スチロール」 製に変更することで、年間約10トンの発泡スチロールをリサイクル素材に切り替えて います。

他にもアルミレス素材袋への切り替えや、紙素材の製品箱をFSC認証材へ切り 替えるなど、製品パッケージの環境負荷軽減対策を進めています。



冷蔵・冷凍試薬輸送時の梱包例

LCA(原料

(原料調達)(生産

(物流)

販売·消費

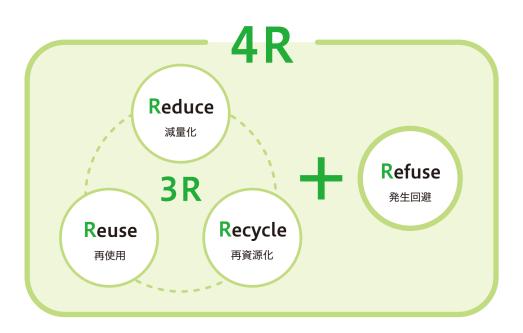
4Rの推進

空容器の発生回避に向けて

一般家庭から出るごみの約6割(容積比)は、容器包装が占めています。

宝酒造ではこの空容器の問題に対処するため、リデュース(Reduce:減量化)、リユース (Reuse:再使用)、リサイクル (Recycle:再資源化)の3Rにリフューズ (Refuse:発生回避)を 加えた4Rの取り組みを進めています。

リフューズとは、余分なものを買わずに必要な物だけを買うことにより、ごみを減らす活動です。 「はかり売り」は、容器を購入せず必要な分だけ中身を買うという意味でリフューズにあたります。



リデュース 容器の軽量化

容器の軽量化は、製造時の資源消費や商品輸送に伴う燃料使用の削減などの環境負荷削減 効果が期待できます。



リユースリターナブル容器の使用

一升びんをはじめとするリターナブル容器(繰り返し使用できる容器)の使用は、資源の節約や 廃棄物の削減に有効な手段です。

宝酒造はこの一升びんの使用量が国内トップクラスであり、上撰松竹梅1.8L、宝焼酎1.8L、タカラ本みりん1.8Lなどで使用されている一升びんを回収・洗瓶して再利用することで、環境負荷軽減を進めています。



LCA

原料調達

E 産) (物流

販売·消費

OUTPUT

リサイクル

リサイクルしやすい容器包装の採用

宝酒造は、1998年にリサイクルの効率化のために策定された「指定ペットボトル自主設計ガイドライン」に酒類業界で初めて完全準拠したペットボトルを開発しました。また、お客様の分別作業が容易になるよう、1999年に本みりんや料理用清酒に「はずせるキャップ」を、2011年に松竹梅「天」にパウチパックを採用するなど、リサイクルの推進にも努めています。

●「指定ペットボトル自主設計ガイド ライン」に完全準拠したペットボトル



●はずせるキャップ



●パウチパックを採用した松竹梅「天」 キャップとも全てのブラスチックなので分別の必要がなく 丸めて簡単にリサイクルに出すことができます。





リフューズ

焼酎のはかり売りの展開

「焼酎のはかり売り」は、新たな容器を使用せずに中身 だけを販売するものです。

宝酒造は、専用タンクに詰めた焼酎を販売店に工場から直送します。お客様は家庭にあるペットボトルなどの空容器を販売店に持参し、販売店ではお客様が持参した空容器を洗浄します。お客様はその容器に必要な分だけ詰めて購入します。このように、伝統的な酒類の販売方法であるはかり売りを、現代風にアレンジしています。

2024年4月現在、92店舗で販売しており、お客様から「容器のごみが出ない」「欲しい量だけ購入できる」などの面からご好評をいただいています。



はかり売りの専用タンク

容器包装資材の循環

リサイクルパッケージ

トマーチン社では、特定の商品を除き、すべて リサイクル可能な容器包装を使用しています。 また、フーデックス社でも再生プラスチックを 使用した食品トレーを採用しています。



フーデックス社 再利用可能な食品トレー

森林認証紙、バイオマス原料の使用

宝グループでは、持続可能な社会の実現に向けて、資源の循環性に配慮すべく、"紙パック製品の森林認証紙使用率"や"紙、樹脂ラベルへのバイオマスインクの使用率"について、目標を策定した上で、積極的な導入を進めています。また、製品容器やラベルについて、バイオマス原料や再生可能な原料の採用を行っています。





バイオマス原料使用

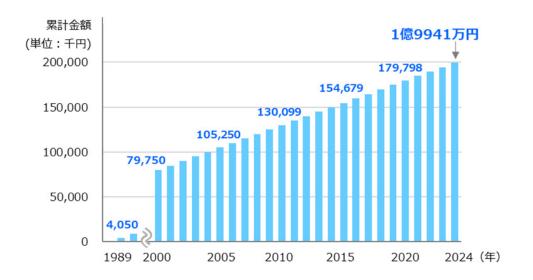
森林認証紙使用

● 生物多様性の保全

タカラ・ハーモニストファンド

宝ホールディングスは、1985年に公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」を設立し、以来毎年、日本の森林・草原や水辺の自然環境を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究などに対して助成を行っています。助成先の選考は自然科学分野の専門性の高い有識者により構成される運営委員会により行われ、助成金贈呈式も開催しています。今後も日本の自然環境を守り育てる活動や研究への助成を通じて、生物多様性および豊かな自然環境の保全を推進していきます。

タカラ・ハーモニストファンド助成実績



● 助成実績と助成先一例



2024年度は、「琵琶湖の人為的水位低下がホンモロコ卵の 生残に与える影響の解明」を行う米田一紀さんのほか、全11 団体・個人を助成。39年間の助成先はのべ422件、助成金 累計金額は1億9941万円となりました。



助成金贈呈式の様子



ホンモロコ

● 2024年度タカラ・ハーモニストファンド助成先一覧

1. 環境方針

目次

	助成先・代表者名	地域	テーマ
	特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所	石川県	能登半島地震による河北潟湖岸植生の消失に関する調査 及び保全再生活動
活動	特定非営利活動法人 三木自然愛好研究会	兵庫県	「増田ふるさと公園」及び三木市内の希少種の保全に取り組む
部	屋久島国立公園パークボランティアの会	鹿児島県	海洋ゴミからウミガメを守る! ウミガメ生息環境保全活動 in 口永良部島
	かわせみの杜 関山田・棚田の会	岐阜県	荒廃放棄された水田及び周辺里山の復旧・保全活動と、子ども達とともに 無農薬稲作、生き物観察会を通して自然に親しむ活動
	特定非営利活動法人 自然環境ネットワーク射水市ビオトープ協会	富山県	射水南部丘陵における【人の営みと野生動植物の共生】を促進する事業
	井上淳	和歌山県	和歌山県生石高原における草原の歴史と火入れの役割について 一累積性土壌の植物珪酸体と微粒炭分析に基づいて
	認定特定非営利活動法人 四国自然史科学研究センター	四国	絶滅のおそれのある四国のツキノワグマ個体群の個体数推定と ポテンシャルマップの作成
研究の部	米田 一紀	滋賀県	琵琶湖の人為的水位低下がホンモロコ卵の生残に与える影響の解明
部	小山 里奈	京都府	巨木を利用する森林性コウモリの活動に森林タイプが及ぼす影響
	豊田 賢治	石川県	砂浜海岸の動植物に能登半島地震が与えた影響評価
	浦幌ヒグマ調査会	北海道	北海道のヒグマの冬眠時期と環境要因の関係

● 生物多様性の保全

田んぼの学校

宝酒造では、2004年より、次世代を担う子どもたちに自然環境や生物多様性を守ることの大切さや、自然の恵みのありがたさを伝えることを目的として、環境教育プログラム・宝酒造「田んぼの学校」を開催しています。2024年も、小学生とそのご家族を対象に、京都府南丹市の田んぼで、春の田植えから秋の収穫までの稲作体験や、里山の自然観察の授業を年3回にわたって行っています。

田んぼの学校は全3回。お米ができるまでを体験します。

参加者は自分の手で苗を植え、草を取り、稲穂を刈り取って、お米ができるまでを体験するほか、田んぼ周辺の植物や昆虫などの生き物も観察します。

目次





苗を手に田植えスタート



田んぼ近くの生きものを間近で観察

夏草取り編



根が張った草を手で抜くのは一苦労



自然観察講師と一緒に植物観察

秋 収穫編



収穫した稲は千歯扱きで脱穀



水面に潜む昆虫をみんなで観察

● 社会活動

エコの学校

宝酒造「エコの学校」は、小学3~6年生とそのご家族を対象とした環境教育プログラムで、2012年から開催しています。これまで、京都市、神戸市、東京都江東区、名古屋市などの環境学習施設を中心に実施してきました。

2024年は、京都府京都市と大阪府八尾市で開催しました。







1時限目

1時限目は、映像を使った「ごみって何?」「家庭でごみを減らす方法」の授業です。 ガラスびんや PET ボトルなどの 3R (スリーアール) について学びます。





2時限目

2時限目は、びんからできるガラスカレット (ガラス片)を使ったリサイクル体験です。 色とりどりのガラス片を並べて貼り付け、オリジナルのカレットアートを作ります。





●その他の環境社会活動

宝酒造

島原工場温水供給

2016年4月から、島原工場は地元貢献のため、島原市にアルコール蒸留後に発生した排温水を無償提供しています。島原温泉はもともと源泉の温度が低く、温度を上げるための燃料代等の維持管理費用が大きな負担となっていましたが、島原工場の排温水を利用したヒートポンプ方式の加温設備を導入することで、エネルギーの消費量、CO2の排出量、エネルギーコストの大幅な削減につながりました。



ヒートポンプ

タカラバイオ

目次

タカラバイオ出張授業

2018年より、文部科学省が学習指導要領で定めるカリキュラム「総合的な学習の時間」の一環として、滋賀県草津市の小学校で出前授業を開催しています。

また、毎年、大学などにおいて、当社の役員・社員が講師となり、遺伝子治療や再生医療などをテーマに、企業やビジネスの観点から、最近の動向と今後の展望などについての講演を行っています。



後日届いたお礼の手紙

宝ホールディングス

祇園祭後祭 ボランティア清掃

京都市に本社が位置する宝ホールディングスでは、社会 貢献活動の一環として、ボランティアによる清掃活動を行って います。祇園祭後祭の期間中、開催エリアを中心に従業員が 自主的に参加して取り組んでいます。

今後も、京都市の企業や団体と協力し、地域の環境整備を続けていきます。



祇園祭後祭 清掃活動への参加

タカラサプライコミュニケーションズ

友禅印刷

伝統的な友禅染の技法に学び、本来なら捨てられるはずの ものを友禅印刷の手法でインキ化することで、廃棄物を印刷 物にアップサイクルします。「友禅印刷」は、京都市が地域企業 の優れた新商品の販路開拓を支援する 「京都市ベンチャー 購買新商品認定制度 | に認定されました。(認定有効期間は 令和6年3月30日~令和11年3月29日)

また当技術を用いて、松竹梅白壁蔵 「然土」にはお米のもみ殻を使用した ラベルを使用しています。インクの中 にもみ殻が含まれているため独特の 風合いのあるラベルになっています。





タカラサプライコミュニケーションズ

1. 環境方針

京都ふぉんと

目次

「京都ふおんと」とは障がいをもつアーティストと福祉施設、 タカラサプライコミュニケーションズ(TSC)が協働して、地域 ならではのフォントやパターンを制作する京都発のサステナ ブルな共創アートプロジェクトです。TSCは、障がいをもつアー ティストが描いたデザインを製品化し、さらにそれらを企業や 自治体に提供して得た使用料の一部をアーティストに環元し ています。この活動を通じて地域の活性化を推進するとともに、 障がいをもつアーティストたちの社会参加を支援しています。

なお、このレポートにも 「京都ふぉんと」のデザ インを採用しています。





原画制作の様子

トマーチン社・タカラ物流システム

輸送工程での取り組み

トマーチン社では輸送および通勤において環境に配慮した 車を使用しています。全車両のうち、60%以上が電気自動車 またはハイブリッド車であり、敷地内には公共の電気自動車 用急速充電器を設置しています。

タカラ物流システムでは、複数企業の荷物を同じトラックに **積んで配送する共同配送を実施しています。これにより、配送** の効率が向上するだけでなく、CO2排出量の削減も期待でき ます。



トマーチン社 電気自動車充電スポット

1. 環境方針

目次

3. 環境データ

●各種データ

環境マネジメント ●環境コンプライアンス

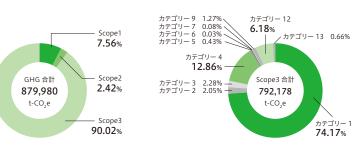
項目	対象範囲	単位	2023年度
環境法令違反による罰則	宝酒造	件	なし
環境法令違反による罰金	宝酒造	円	なし

気候変動

●GHG排出量(※Scope1で算出したGHG: CO₂、CH₄、N₂O、HFCs)

項目	対象範囲	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
Scope1+Scope2			107,971	104,859	94,512	87,802
内訳:Scope1]		87,286	84,081	71,908	66,523
内訳:Scope2			20,685	20,778	22,604	21,279
Scope3 総計			_	823,018	857,879	792,178
カテゴリー1			_	625,373	629,825	587,524
カテゴリー2			_	6,221	10,698	16,240
カテゴリー3			_	18,680	19,190	18,035
カテゴリー4			_	112,830	122,895	101,839
カテゴリー5	・ 宝ホールディングス	t-CO ₂ e	_	947	2,511	3,391
カテゴリー6	・宝酒造		_	235	258	261
カテゴリー7	・宝酒造インターナショナルグループ	1-CO ₂ e	_	586	654	667
カテゴリー8	(2022年度から追加)		_	算定対象外	算定対象外	算定対象外
カテゴリー9			_	5,300	13,867	10,034
カテゴリー10			_	算定対象外	算定対象外	算定対象外
カテゴリー11			_	算定対象外	算定対象外	算定対象外
カテゴリー12			_	52,579	51,690	48,950
カテゴリー13			_	6,408	6,291	5,236
カテゴリー14			_	算定対象外	算定対象外	算定対象外
カテゴリー15			_	算定対象外	算定対象外	算定対象外
Scope1+Scope2+Scope3			_	927,877	952,391	879,980





●生産工程におけるCO₃排出量

• = = = = = = = = = = = = = = = = = = =								
項目	対象範囲	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	宝酒造		97,500	94,961	95,778	93,645	84,929	81,321
生産工程における CO₂排出量	宝酒造インターナショナル*	+ 60	6,191	4,572	3,469	4,868	3,774	3,810
(生産拠点のみで算出)	タカラバイオ	1-CO ₂	13,180	10,859	12,833	14,252	15,692	14,211
	ā†		116.871	110.392	112.080	112,765	104.395	99.342

^{*2023} 年度算定分よりオンタリオ社追加

●物流工程におけるCO₂排出量

項目	対象範囲	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
物流工程におけるCO2排出量	宝酒造	t-CO ₂	16,011	16,389	15,866	15,632	14,469	13,164

●エネルギー使用量

項目	対象範囲	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
エネルギー使用量	宝酒造	TJ	1,562	1,555	1,501	1,467	1,620

[※] 電力換算係数は国際エネルギー機関の 3.6MJ/kWh を使用

項目 対象範囲

宝酒造

宝酒造

NOx 宝酒造

単位

t-SOx

kg

2019年度

104

118

0

2020年度

100

96

0

2021年度

94

97

0

2022年度

90

0

2023年度

30

88

0

資源利用

INPUT/OUTPUT

項	[目	対象範囲	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		宝酒造	千t	204	201	185	183	173
原材料使用量	原料	宝酒造	千t	182	184	169	168	158
	容器包装資材	宝酒造	千t	21	17	16	15	15
生産量		宝酒造	千kl	515	526	522	494	474

[※] 省エネ法報告生産数量

廃棄物管理

●廃棄物排出

●廃棄物排出 ●										
項	目	対象範囲	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	項目	対針
		宝酒造	t	4,975	4,974	5,338	4,662	5,174	NOx	宝
廃棄物	再資源化量	宝酒造	t	4,859	4,886	5,287	4,616	5,075	SOx	宝
	最終処分量	宝酒造	t	116	88	51	46	100	VOC	宝
有害廃棄物		宝酒造	t	2	0.2	2.4	5.1	1.1		

[※] 有害廃棄物 (廃油・廃酸・廃アルカリ・PCB)

水セキュリティ

●適正な水使用

項	<u></u>	対象範囲	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		宝酒造	千m³	5,903	5,810	5,606	5,626	5,050
水資源	上水	宝酒造	千m³	275	251	219	206	240
投入量	工業用水	宝酒造	千m³	1,048	1,081	1,089	1,129	1,117
	地下水	宝酒造	千m³	4,580	4,478	4,298	4,291	3,694
		宝酒造	千m³	5,098	4,927	5,147	5,565	4,505
排水量	下水道	宝酒造	千m³	914	853	883	824	714
151-小里	河川	宝酒造	千m³	2,963	2,769	2,866	3,462	2,536
	港湾	宝酒造	千m³	1,221	1,305	1,398	1,279	1,256
	COD	宝酒造	t-COD	64	56	43	45	20
排水水質	窒素	宝酒造	t-N	8	9	12	12	4
	リン	宝酒造	t-P	3	2	3	3	1
生産工程での	の用水使用量	宝酒造、Takara Sake USA Inc. 宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co.Ltd.、タカラバイオ、宝生物工程(大連)有限公司、DSS Takara Bio Pvt. Ltd.、Takara Bio USA,Inc. ※2019年2月まで瑞穂農林、きのこセンター金武含む	+m³	7,295	6,822	6,465	6,484	6,134

[※] 法令による測定義務5工場が対象

牛物多様性

●生態系・生物多様性の保全(1985~2024年現在)

項目	対象範囲	単位	累計
生態系や生物多様性を守る活動や研究への助成件数	宝ホールディングス	件	422
助成金額	宝ホールディングス	万円	19,941

ESGインデックスへの組入状況

宝ホールディングスは、GPIF (年金積立金管理運用 独立行政法人)に採用されているESG指数をはじめ、 主要なESG指数の構成銘柄となっています。

※2024年7月時点



FTSE4Good

FTSE4Good Index Series Japan Index

FTSE Blossom

FTSE Blossom Japan Index

2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

* The inclusion of [Takara holdings inc.] in any MSCI index, and the use of MSCI logos, trademarks, service marks or index names herein, do not constitute a sponsorship, endorsement or promotion of [Takara holdings inc.] by MSCI or any of its affiliates, the MSCI indexes are the exclusive property of MSCI. MSCI and the msci index names and logos are trademarks or service marks of MSCI or its affiliates.

MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数



S&P/JPX カーボン・ エフィシェント指数

● TCFDフレームワークに基づく開示 TCFD | TASK POINCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL PROPERTY OF THE PROPERT



目次

宝グループは、地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題のひとつと位置づけ、積極 的に取り組みを進めています。当社グループでは、気候変動が事業の持続性に影響を与える重要 な問題であると認識し、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言に賛同するとともに、 TCFDフレームワークに沿って気候変動に関するリスクと機会の評価と対応を進め、関連する情報 の開示を行いステークホルダーの皆様と対話を続けていきます。

また、TCFD 提言へ替同する企業や金融機関等が一体となって取組を推進し、企業の効果的 な情報開示や、金融機関等の適切な投資判断に繋げるための取組について議論する場である、 TCFDコンソーシアムにも加盟しています。

ガバナンス

宝グループでは、取締役会の監督のもと、宝ホールディングス代表取締役社長を委員長とした 「宝グループ・サステナビリティ推進委員会」を設置し、気候変動が事業に与えるリスク・機会の 評価や戦略の策定、目標などについて審議を進めています。また、宝グループ・サステナビリティ 推進委員会の下部組織として気候変動問題に対応する「サステナビリティ推進事務局」を設置して います。サステナビリティ推進事務局は、宝グループ・サステナビリティ推進委員会の決定に基づ いて、グループ各社の具体的活動の設定、実行を推進します。

これらの気候変動問題を 含むサステナビリティの取 り組みは、宝グループ・サス テナビリティ推進委員会が 取締役会に報告します。

体制図

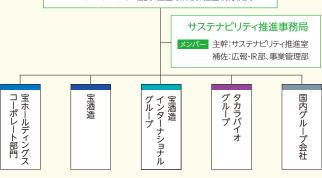
宝ホールディングス取締役会

宝グループ・サステナビリティ推進委員会

委員長 宝ホールディングス社長

メンバー 宝ホールディングス:取締役、監査役、執行役員 宝酒造:取締役 宝酒造インターナショナル:取締役

タカラバイオ: 社長、担当取締役、担当執行役員



リスク管理

宝グループでは、宝酒造株式会社、宝酒造インターナショナル株式会社(海外酒類事業、海外 日本食材卸事業)を対象に、リスクと機会を特定しました。特定のプロセスとしては、移行リスク や物理的リスクについて、専門家の意見や公表されているレポートなどを参考に、想定される リスク・機会を抽出し、影響を受ける可能性や大きさを考慮し、短期・中期・長期の時間軸で影響が 大きいと想定されるリスク・機会を選定しました。特定されたリスク・機会の内容とその対応策は、 宝グループ・サステナビリティ推進委員会が取締役会へ報告します。

戦略・シナリオ分析

宝グループでは、2021年度の宝酒造株式会社、2022年度の宝酒造インターナショナル株式会社 海外酒類事業に加え、2023年度は宝酒造インターナショナル株式会社海外日本食材卸事業を 対象に広げ、気候変動リスク・機会による事業への影響の把握、対応策の検討のためのシナリオ 分析を実施しました。

なお、この分析にあたり、物理的リスクではIPCC(気候変動に関する政府間パネル)のAR5に よるRCP2.6(2℃未満シナリオ)およびRCP8.5(4℃シナリオ)、移行リスクではIEA(国際エネ ルギー機関)のWEOによるAPSシナリオ(2℃未満シナリオ)、SDSシナリオ(2℃未満シナリオ)、 NZE2050シナリオ(1.5℃シナリオ)を参照し、気候変動による影響を分析・検討しました。

移行 リスク

気温上昇が2℃未満に抑えられ、カーボンニュートラル達成に向け厳しい環境規制が導入 される中で、炭素税の導入による、製造コストや運営コスト、保管コスト、容器・包装材 価格の増加により事業が影響を受けます。

物理的 リスク

気温上昇が4℃程度となり、海面上昇による高潮や洪水の被害は操業に大きな影響を 与えます。さらに、気温上昇により、原材料である農作物の収量が大きな影響を受けること がわかりました。

機会

省エネ設備の導入等省エネ推進によって操業コストが低減することや、エシカル消費需要 やエコ商品需要の高まりは、当社にとって機会になると考えています。

今後は、継続的にリスク・機会の見直しや対策の具体化を進め、中長期の経営戦略に反映させる ことで戦略のレジリエンス向上に努めます。

対象企業: 宝酒造株式会社、宝酒造インターナショナル株式会社〈海外酒類事業(Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、 The Tomatin Distillery Co. Ltd) 海外日本食材卸事業(Mutual Trading Co., Inc. 、Tazaki Foods Limited、FOODEX S.A.S., Cominport Distribución S.L., Nippon Food Supplies Company Pty Ltd)

※タカラバイオ株式会社のTCFDフレームワークに基づく開示はタカラバイオウェブサイトをご覧ください。

エシカル消費の需要増加

スの「ヴィーガン商材」等の品揃え強化 ・商品特徴や認証取得に関する顧客への情報提供

国内事業・海外酒類事業における気候変動による事業リスクと機会

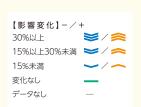
. !,	ノスク	内容	時間軸 ^{*1}	影響	度*2	対 策
移行リスク		说導入による コストの増加	中期	1.5°C シナリオ	2.0°C シナリオ	・CO ₂ 排出量削減の取り組み推進、再エネ比率の拡大 ・モーダルシフトの推進(日本国内が対象) ・再生可能エネルギー利用の推進(太陽光パネル設置等) ・社用車のEV化
えク	容器・ の増加	包装材コスト	中期	•	•	・リサイクル容器や低炭素の代替容器への切り替え・紙や段ボールの認証取得(FSC、PEFC等)・軟包材・印刷へのバイオマス原料使用・包装材軽量化(壜缶の軽量化・ラベルシール廃止)
物	河川洲	D濫(水害)	長期	4.0° C	シナリオ	・日本国内の生産拠点の分散化 ・大規模浸水が想定される拠点の重点調査・対策検討
埋 的	沿岸沿	D濫(水害)	長期	•	大	・BCPの検討・策定
物理的リスク		勿収穫への影響 は下記を参照)				(詳細は下記を参照)
		80年頃まで ※ 50年頃まで	2 財務指標に与 移行リスクは		_	上 ⊕ 1~5% ᠕ 1%未満 スクは連結売上高、連結有形固定資産、連結棚卸資産への影響
■ 村	幾会		内容			対 策
	省エネ設備への入替によるコストへの影響					・低炭素型設備の導入 (ボイラーを重油から天然ガスへ転換) ・Tomatinにおけるバイオマスボイラーの活用
機会	省工	ネ推進によるコ	スト削減へ	の影響		・操業コストの低減に繋がる省エネ設備の導入促進 ・排熱の再利用促進の検討(ヒートポンプの活用等)
	エコ商品需要(エシカル消費需要)の増加					・エシカル消費に対応した商品開発 (寶CRAFT、松竹梅「然土」、等) ・環境配慮型商品や認証商品への取り組み

農作物収穫への影響

宝酒造株式会社、宝酒造インターナショナル株式会社海外酒類事業を対象に広げて、原材料使用で高ウエイトを占める4品目について気温上昇による収量への影響を分析しました。

産業革命以前からの世界平均の気温上昇量(℃)と影響変化

品目	主要原産国	2.0℃	4.0℃	対策
サトウキビ(収量)	ブラジル	~		・生産者との協業による安定
トウモロコシ(収量)	米国	>		調達の継続
水稲 (収量)	日本	_	>	・調達リスクを低減するための
水稲 (収量)	中国	~	<u> </u>	サプライヤーの調査・分散化
水稲 (収量)	米国	~	~	・気候変動に対応した原材料
大麦 (収量)	英国	~	_	の調査・検討



海外日本食材卸事業における気候変動による事業リスクと機会

■ 1,	ノスク 内容	時間軸 ^{*1}	影響度*2	対策
	炭素税導入による 商品調達コストの 増加	中期	1.5°C 2.0°C シナリオ シナリオ	・炭素税等カーボンプライシングの動向把握 ・持続可能な容器・包装材を扱った商品の調査・切替
移行リスク	炭素税導入による 配送・保管コストの 増加	中期	4	・EV車、EVトラックの導入 ・各国の再生可能電力動向の把握 ・再生可能エネルギー利用の推進(太陽光パネル設置等)
スク	電力価格の上昇に よる保管コストの 増加	中期	_ •	・省エネ施策の検討・推進 (照明のLED化、照明の自動センサー化、空調のヒート ポンプ活用等)
	原材料の収穫減少 による調達価格の 上昇	中期	(定性評価)	・代替調達先の検討・選定 ・代替商品の調査・調達
物理的	河川氾濫(水害)	長期	40°62 111	·BCPの検討・策定
的リスク	沿岸氾濫(水害)	長期	4.0°Cシナリオ	(拠点設備の対策、在庫対応、物流ルート対応、供給先への納品量対応、訓練の実施等) ・水害リスクを考慮した立地検討や施設床高の確保
1 中期 2030年頃まで **2 財務指標に与える影響度 **5%以上 ** 中 1~5% * 1 1%未満 移行に 長期 2050年頃まで リスクは連結売上高、連結有形固定資産、連結棚卸資産への影響 ― シナリオラ				
横	送 会	内容		対策
1010	環境配慮型製品・パッ 取引増加	ァケージへのt	刃り替えによる	・環境配慮型製品・パッケージの選定と品揃え ・調達に向けたサプライヤーとの協力関係の構築
機会				・牛肉の代替品として気温上昇抑制に繋がる、植物ベー

指標と目標

宝グループは、「宝グループ・サステナビリティ・ビジョン」においてCO2排出量の削減目標を 設定しており、宝酒造株式会社、宝酒造インターナショナルグループにおいては生産拠点における Scope1、Scope2の合計CO2排出量の目標を設定しています。

■ 目標と2023年度の進捗状況

達成年度	範囲	指標•目標	2023年度実績
	宝酒造 宝酒造インターナショナルグループ	生産拠点におけるCO ₂ 排出量を 2018年度比で46%削減	2018年度比:18%削減 CO ₂ 排出量:85,112(t-CO ₂)
2030年	タカラバイオグループ	CO₂排出原単位(売上高当たりの CO₂排出量)を2018年度比で 50%削減	2018年度比:11%削減
	宝酒造(物流部門)	輸送におけるCO2排出原単位 (販売数量当たりのCO2排出量) を2018年度比で10%削減	2018年度比:18%削減
2050年	グループ全体	CO ₂ 排出量実質ゼロ	_

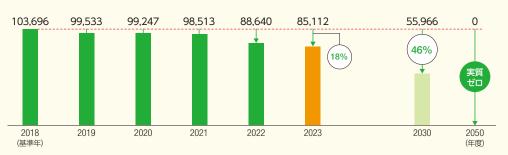
■ 宝酒造、宝酒造インターナショナルグループのScope 1、Scope 2の合計CO2排出量

※宝酒造、宝酒造インターナショナルグループの生産拠点



1. 環境方針

目次



■ 宝ホールディングス株式会社・宝酒造株式会社の GHG(温室効果ガス)排出量(2023年度)

宝ホールディングス株式会社・宝酒造株式会社ではScope1、Scope2、Scope3のGHG(温室 効果ガス)排出量の算定を行っております。今後グループでの把握を進めていきます。

単位:t-CO2e

	2022年度	2023年度
Scope1+Scope2	90,802	86,954
Scope1	69,280	66,486
Scope2	21,522	20,468

カテゴリー		2022年度	2023年度	算定方法	
Scop	Scope3		802,323	754,409	
	カテゴリー1	購入した製品・サービス	605,552	564,630	調達した原材料・容器包材を対象に算出
	カテゴリー2	資本財	8,864	13,111	購入した設備・機器を対象に算出
	カテゴリー3	Scope1,2に含まれない 燃料およびエネルギー活動	18,450	17,603	燃料・電力の使用量を元に算出
上流	カテゴリー4	輸送、配送(上流)	106,276	100,036	調達した原材料・容器包材の物流を対象 に算出
	カテゴリー5	事業から出る廃棄物	864	940	廃棄物の重量や処理費用を対象に算出
	カテゴリー6	出張	230	233	従業員の出張を対象に算出
	カテゴリー7	雇用者の通勤	575	587	従業員の通勤を対象に算出
	カテゴリー8	リース資産(上流)	_	_	算定対象外
	カテゴリー9	輸送、配送(下流)	4,408	3,814	出荷物流を対象に算出
	カテゴリー10	販売した製品の加工	_	_	算定対象外
	カテゴリー11	販売した製品の使用	_	_	算定対象外
下流	カテゴリー12	販売した製品の廃棄	50,813	48,220	販売商品の廃棄物を対象に算出
	カテゴリー13	リース資産(下流)	6,291	5,236	外部への賃貸機器を対象に算出
	カテゴリー14	フランチャイズ	_	_	算定対象外
	カテゴリー15	投資	_	_	算定対象外
Scope1+Scope2+Scope3		893,125	841,363		

Scope1:事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope3:Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

985 (昭和6年)

「Say No」キャンペーン実施

(昭和6年) (平成元年)

適正飲酒啓発パンフレット「Say

Nο読本」を発行

スポーツドリンク「PADI」に、日本で初めてステイオンタブ(SOT)を採用

1925

寳酒造株式会社創立

1980

「カムバック・サーモン・キャンペーン」開始

(昭和59年)

「はたちまでストップ」企業広告を実施

公益信託タカラ・ハ

ーモニストファンドを設立

(平成26年) (平成26年) (平成26年)

白河工場跡地を白河市へ寄付

宝酒造「田んぼの学校」が「青少年の体験活動推進企業表彰」で「審査委員会特別賞」を受賞

「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」で最高賞「内閣総理大臣賞」を受賞

松竹梅「天」エコパウチが「容器包装簡素化大賞2017」の特別賞を受賞・

「エコマークアワード2018」で宝酒造が「最優秀賞」を受賞

森林認証紙の採用(PEFC認証等)

2020

(平成30年)

2023 (令和5年)

宝ホールディングス歴史記念館 CO゚フリーエネルギー化

ルディングスと宝酒造の Scope3 算定開示

2024 (令和6年)

寶CRAFT京檸檬が「第7回エコプロアワード」の「財務大臣賞」を受賞・

4. 宝の環境社会活動のあゆみ

1990

2000 2010 2 0 0 0 2003 (平成15年) 2005 (平成17年) 2006 (平成18年) 994 999 (平成11年) 998 (平成10年) · (平成16年) (平成20年) (平成6年) (平成6年) (平成12年) (平成14年) (平成16年) (平成23年) (平成23年) (平成24年) 第1回「タカラ クリーンcan ウォーキング」を開催 北海道で宝焼酎「純」、「純」レジェンドのリタ・ 四万十川の清流を守ろうキャンペーン開始 阪神・淡路大震災で支援ボランティアスタッフを派遣 未成年者飲酒、飲酒運転の注意表示を開始 商品に点字で「おさけ」表示を開始 焼酎のはかり売り開始 環境報告書「緑字決算報告書」初刊発行 タカラ本みりん「醇良」にはずせるキャップを採用 地球環境大賞「地球環境会議が選ぶ優秀企業賞」受賞 ベロタクシーへの協賛開始 阿武隈川きらきらキャンペーンに協賛 環境教育教材「リサイクルロード」発刊 宝酒造[田んぼの学校]開始 妊産婦飲酒の注意表示実施 CSR報告書「緑字企業報告書」初刊発行 お客様相談室のウェブサイト開設 「宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦」開催 「お酒おつきあい読本」発行 東日本大震災で被災地給水を支援 松竹梅「天」 にパウチパックを採用 宝酒造「田んぼの学校」が「企業フィランソロピー 宝酒造「エコの学校」開始 ナブルボトル化開始 大賞特別賞」を受賞

1. 環境方針

